

を含ませている。当時の子規としては、むしろこちらの方を苦心して作ったのかもしれない。

いずれにしても子規は犬好きであり、多くの犬の句を残している。中には、

出代の別れかねたる子犬哉

犬の死を傷む

長き夜を汝が吠ゆる声も聞ざりき

犬つれて狩に出る日や鵞の声

といった人と犬との交流を作品化したものがある。

子規の雑誌「ほととぎす」は、明治三十年（一八九七）に創刊されているが、その第拾三号（明治三十一年一月三十日発行）には、募集課題句「犬」（冬季）の作品が発表されている。選者は、門下の石井露月であるが、課題の提案者は、恐らく子規であろう。選者の露月は、選後の感想として、

最も眼に立ちしは、趣向の相似たるが甚だ多き事なり。（中略）
かくの如き趣向のしかく相似たるは、そも何事を意味しつつかあるか。

と述べている。入選句中、佳句と思われるもののいくつかを左に引いておく。

僧帰ると雪に出迎ふ小犬かな 南溟

里の子の犬の背に乗る小春かな 桂堂

犬の子を狸はぐむ霜夜かな 暮野

犬ほえて夫呼び起す寒夜かな 暮野

作者中の「暮野」は、通説では、子規の雅号という。が、子規自身は「野暮流」を雅号としていて、「暮野」とは名乗っていない。しばらく疑問としておく。

歌集紹介

『テオが来た日』



佐佐木幸綱 四六版上製 価格2500円+税

ウイスキーに氷を入れて振る音に
おやつと見上げ再びねむる

『春のテオドール』



佐佐木幸綱 四六版上製 価格2500円+税

おもいつきたることあるらしく二階
からいそぎおりくるテオとであえり

ながらみ書房の歌集・歌書

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-13 秋和ビル406 Tel 03-3234-2926 Fax 03-3234-3227
hp <http://www6.ocn.ne.jp/~nagarami/> e-mail nagarami@jasmine.ocn.ne.jp 振替 00160-1-124298